

平成26年度の学校経営計画 各分掌の目標達成のための具体的計画と達成状況

*下線は今年度新たな取り組み

本年度の学校経営目標	担当	目標達成のための具体的計画	達成基準	中間評価		年度末評価	
				取り組み内容と課題、中間期までにできた、できなかったこと等	評価	取り組み内容と課題、できたこと、できなかったこと等	評価
① 生徒の進路実現を目指した指導力・授業力（言語活動の充実を盛り込む）の向上	教務課	7. 数学と理科の学校設定科目を設けるなど、より生徒の進路希望に即した科目選択ができる教育課程にする。また、生徒の進路希望が達成できる教育課程となっているか検証・検討を進める。 イ. 科目選択の指導について年次団の共通理解を図る。（特に普通科）	7. より進路希望が達成できる教育課程となる。 ・習熟度別授業の実施科目や形態が効果的なものとなっているか検証、検討する。 イ. 最終科目選択が生徒・教員の十分な理解のもとでなされる。	7. 数学・理科の学校設定科目開設とそれに伴う教育課程の一部変更ができた。 ・習熟度別授業については年度末に向けて状況を正確に把握していく必要がある。 イ. 年次での検討体制は整えることができた。個々の生徒に対してHR担任と教科担任とが連絡を密にする必要性が感じられた場面など課題も見いだせた。	B	7. 学校設定科目開設により理数系から人文系への変更や3年次数学で進路希望に即した授業が受けられる形ができた。 ・英語の習熟度については3年の授業形態とあわせて検討できた。 イ. 年次内の連絡をとりあいながら大きなトラブルなく科目選択できたが、特殊な選択の場合は担任、生徒、教科担任の間の微妙なズレを埋める努力が課題として残る。	B
	進路課	・国公立大学個別試験の問題研究を継続して行う。 ・研修会/研究会などに参加することで新課程入試に関する資料を収集し、伝達講習する。	・大阪大学入試問題の解答・解説のファイルが作成できる。教科内で研究する。 ・検討会時、教員研修の時間をとり伝達講習する。	・原稿はほぼそろった。まもなくファイル化できる。十分議論できている教科もある。 ・7月検討会では、14年度入試の総括について伝達した。8月職員会議では、センター試験について研修した。	B	・原稿がそろったものをファイルにして進路学習室に置いて、生徒が活用できるようにした。来年度は、他大学も研究したい。 ・12月検討会では、低学年指導に関する研究会の伝達講習を行った。	B
	総務企画課	小中高の授業連携の方法を研究し、推進する。	授業連携（授業見学・出前授業）を10回以上行う。	・5名の教員が高梁中学校を訪問し、授業を見学した後、研究会に参加し、「協同学習を活かした授業のあり方」について研修した（6/18） ・7/14に2名の教員が成羽中学校で家庭科の出前授業を行った。	C	・授業見学3回（6/18、12/9、1/23 高梁中学校） ・出前授業6回10講座 （7/14成羽（家）11/11有漢（理） 12/4高梁（英）12/16成羽（数・国） 12/15川上（英）12/19高梁東（理）） ・授業見学は延べ21名の教員、出前授業は8名の教員が参加し、指導力・授業力の向上となった。	A
	文化課	図書館利用状況の実態を把握するとともに、パソコンの更新や使いやすい書架を設置するなど環境を整備して、図書館を利用する生徒を増やす取り組みをする。	貸出冊数が昨年(3,502冊)(12月まで)を上回る。	・7月までの図書館利用状況を学年ごとに報告して、協力を呼びかけた。 ・本の表紙が見やすくなるように、回転架を1台更新した。 ・7月までの貸出冊数は、昨年並みであった。	B	・図書館の利用状況を各学年団に報告し、図書館を利用する生徒が増えるように先生方に協力をお願いした。回転架1台、パソコン2台を更新した。また、テーマ展示や季節感のある飾り付けをして環境を整えた。その結果、12月までの貸出冊数は、3,615冊で、昨年を上回った。	B
	国語科	「話す」「聞く」などの生徒の言語活動を授業に取り入れて、伝えあう力を高める。	生徒の言語活動を取り入れた授業を年間10回程度実施する。	・日々の授業の中で「話す」「聞く」場面を設けている。今後は、「単元のまとめ」等で、他者の考えを踏まえ、じっくりと考え、発言していくような場面を設定していきたい。	B	・言語活動を10回程度実施することができた。自分の考えを表現するだけでなく、他者の考えを踏まえた上で発言していくような場面を設定していきたい。	B
	地歴公民科	・思考力の育成のために各種資（史）料、統計、地図などにしっかりと向き合う場面を設定する。読みとったことを表現させる手段を工夫する。 ・他校の公開授業等を見学し、自らの授業にフィードバックすることを心がける。	各種資（史）料、統計、地図などから読みとったことを発表させる場面を各期に3回以上設ける。 平均1回以上校外の公開授業・研究授業等を参観する。	・各種資料、統計地図などから読みとったことを発表する場面を、前期の授業内で各科目少なくとも3回以上は設け、言語活動の活性化を目指した。 ・公開授業などを平均1回の参観は達成される予定である。今後も引き続き自己研鑽に励んでいく。	B	・言語活動の充実を目指して、生徒が思考過程や意見を表現する場面を、各担当者が授業内に設定した。来年度も引き続き設定していく。 ・公開授業は平均1回の参観は達成された。	B
	数学科	・他校での公開授業の参観を通して、授業力の向上を図る。 ・校内実力考査の作問、結果分析を全員で行うことにより、作問能力や分析能力の向上を図る。	平均1回以上公開授業を参観する。3年の実力考査については全員で作問する。1、2年のものについては全員で検討する。	・6月の授業力向上での授業参観では、1人2回以上を達成した。 ・3年の実力考査作問は全員で作問検討できた。	B	・11月授業見学は1人1回以上の見学を達成。 ・3年実力考査の全員での作問を達成。 ・実力考査の成績（平均、度数等）を回覧の形で情報共有。	B
	理科	実験に際しては、事後報告レポートの作成に先立ち、結果整理・考察について班内で議論させる。また授業に於いても、生徒同士で課題について考えさせたり議論することでプレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を図る。	単元ごとに1回以上、生徒同士で議論させる授業を実施する。	・実験、講義等で生徒同士が話し合いをする機会を持ち、議論させることができた。（物理、化学は週1回、生物は毎時間） 継続して行いたい。	A	・ペースダウンした科目もあるが、生徒同士が議論する授業がおおむね展開できた。来年度も継続して行いたい。	B
	保健体育科	生徒の自主性を促す場を設定し、個々の思考力を向上させるとともに、自己の考えや発想を伝える力の育成を図る。	・戦術の共通理解を図るための生徒ミーティングを週に1度実施させる ・各単元の種目ごとに、各グループで練習メニューを考えさせ、発表し合う場を設ける。	・自主的なミーティングを各担当教員が声かけを行って促す程度はできているが、数値目標の達成には至っていないので、達成に向けて継続した声かけを行っていききたい。	B	・生徒ミーティングは定期的ではないが、必要に応じて生徒間で設置し、共通理解の上に授業を進めることができるようになってきている。 ・今後は更にミーティング内容の改善等アドバイスの機会を設けていきたい。	B

B

	芸術科	古今の名作を分析し、想像力を働かせ自分の考えを的確に表現でき、創作に生かす力を身につけさせる。	単元ごとの総括、(意見)発表を行う。	・グループごとに課題を決めて話し合いや分析を行い、発表・自己評価等を行った。	B	・自分の課題について何を表現したいかを明らかにし、それを他者に向けて発表するために、それぞれが努力することができた。	B	
	英語科	昨年度作成した Can-Do リストを実際に運用して、生徒の言語運用能力の伸長を図る。	各年次の到達目標を8割以上の生徒が達成。	・Can-Do リストの到達目標を達成しているかどうかについては年度末に検証したいと考えている。現在は検証方法を検討している。	B	・Can-Do リストの到達目標をほぼ達成している生徒は、家政科と普通科の2年生で5割程度、1年生で約7割という状況である。リストの項目の見直しも検討しながら、生徒の言語運用能力を高める授業を模索したいと考えている。	C	
	家庭科	各教員が校外の研修に参加後、科内で研修内容の報告会を開く。	報告会を開けた。	・研修内容の回覧は出来たが、報告会までには至っていない。	B	・校外の研修に積極的に参加でき、研修内容の回覧は出来たが、報告会までには至っていない。	B	
	授業研究部会	・言語活動を通して生徒の変容を図る。 ・授業見学の際の教科での振り返り会の実施。	・生徒の「積極的な意見」「発表する力」「論理的に考える力」の向上(アンケート) ・振り返り会の完全実施	・アンケート内容は検討中。授業見学等を通し、生徒変容への意識を高めたい。 ・教科ごとの研究授業は4教科で終了し、振り返りも実施いただいている。	B	・3年次生のアンケートでは発表する力がついてきたと感じる生徒が増えている様子が見える。(1,2年次はアンケートを2月に実施) ・研究授業は7教科で終了	B	
② 生徒の学習習慣の確立(自主的な学習を目指して)	進路課	・年間を通して学習実態調査を行う。生徒が自己目標をたて、日々の学習を振り返りながら学習習慣を確立させる。 ・各教科の学習習慣育成の取り組み内容を把握し、教科バランスのとれた学習習慣にする。 ・『進路のてびき』を改訂して発行する。	・家庭学習の時間が3時間を超える生徒の割合が7割を超える。 ・模試の反省会をその都度行う。 ・夏休み前に発行できる。	・3年6月は92%、入学以来7割を切ったのは1年次9月のみ。 ・2年9月は74%、2年になって7割を超えた。 ・1年9月は68%、入学以来初めて7割を切った。 ・進路課会議での反省はできているが、年次での反省会を定着させたい。 ・予定どおり発行できた。	B	・2年1月は62%、11月は79%まで上がったが1月は再び7割を切った。 ・1年1月は75%、9月以外は7割を超えた。 ・2年は模試の反省も含め、12月末にミニ検討会を行った。 ・『進路の手引き』は、夏休み前までに発行できた。今後は内容を精選していきたい。	B	
	国語科	授業の小テストに向けての取り組みの他、授業ごとの予習・復習となる学習や週末課題を課す。	小テストの合格率7割以上。 課題の提出率8割以上。	・合格率、提出率共に現在はほぼ達成基準に到達できているが、どちらも次第に割合が下がってきている。学習への取り組みについて指導をし、合格率・提出率の確保につなげ、知識の定着を図りたい。	B	・小テスト合格率、課題提出状況は共に基準に到達できた。 ・小テストでの合格、課題提出のみが目標となり、知識の定着については不十分な面も見られた。	B	
	地歴公民科	復習の習慣を定着させるために週末課題を3教科とのバランスを考えながら出す。小テストを定期的に実施する。	・週末課題を隔週で課す。 ・模試の時期に小テストを実施する。	・小テストを各科目担当で定期的実施している。(模試前や考査前後など) ・週末課題も他教科とのバランスも考慮しながら、時機を見はからって課している。	B	・各科目の担当者が、3教科とのバランスを見ながら週末課題を課し、また毎回あるいは各単元ごとに小テストを課し、定着を図った。	B	
	数学科	学習習慣の確立および学力向上のため、全学年毎日、数学の課題を提出させる。上位層の生徒については、自主的に行う課題に取り組みさせる。生徒同士で教えあい、学びあう雰囲気を作る。	普通科生徒の9割以上が、数学毎日課題(1・2年次生)や予習・復習などの課題(3年次生)を提出し、数学の家庭学習を毎日1時間以上確保する。 進研模試(数学計)全国偏差値60以上が15人以上いる。	・提出物はおおむね基準に達している。 ・学習時間(9月、3年のみ6月) 1年1.3時間、2年1.1時間、3年1.0時間 ・進研模試(7月記述)60以上 1年4人、2年29人、3年8人	B	・提出物は基準を達成している。 ・学習実態調査(11月) 1年1.3時間、2年:1.0時間 ・進研模試(11月記述)60以上 1年:19人、2年:17人 ・センター試験校内平均 I A:56.2点、II B:29.1点	B	B
	理科	定期的な課題(当日課題、週末課題)の実施と期限厳守での提出を促す。課題の提出状況一覧表を少なくとも週1度は提示し、状況が良くない生徒に関しては随時面談を行い指導する。	提出率90%以上…A 提出率75%以上…B 提出率75%以下…C	・各教員で提出を促し、週1回の提出一覧の提示や、未提出が多い生徒への随時面談など行っている。提出率は物理77%、化学約90%、生物98%。	B	・週1回の提出一覧の提示、提出が芳しくない生徒への随時面談を続けた。提出率は物理84%、化学約91%、生物97%。	A	
	英語科	授業で学習した内容の定着を図るために、家庭で復習としてすべきことを具体的に示し、小テスト等で評価する。	授業アンケートで「復習している」と答える生徒の割合が7割以上。	・6月実施の授業アンケートでは「復習している」と答える生徒が、72.8%だった。年度末に英語科で独自のアンケート調査をし、検証したいと考えている。	B	・1月末の調査では「予習している」と答える生徒が9割近くいるのに対して、「復習している」と答える生徒は2年生で30.1%1年生で35.8%という状況だった。	C	
	家庭科	各種家庭科に関する検定の取得において、生徒が主体的に取り組み、専門的な知識と技術の習得ができる。	合格率90%。	・家庭科技術検定合格率(前期)92%。 ・放課後自主的に居残り練習(学習)する姿も多く見られた。	B	・家庭科技術検定合格率(後期)88%。 ・年間では、90%の合格率であったが、筆記の合格率に課題が残った。	B	
	1年次	教科担任と年次との連携を密にして指導にあたる。	教科担任と年次との連携がとれ課題の提出状況が良い	・夏休み課題の提出状況は9月第1週でほぼ全員提出。日常の提出状況については、よくない生徒が各クラス4、5名固定した。	B	・中間評価で提出状況がよくない生徒について、各クラス2、3名程度に減らすことができた。	A	
	2年次	授業規律を確立し課題の量や内容を調整する。 休日の生活実態を記録させる。	緊張感のある授業が展開され、期限内の課題の提出状況90%以上	・学習意欲や課題の提出状況など明らかな2極化が見られる。 ・1か月間休日の記録をさせた。学習実態調査では、昨年に比べ改善の傾向がある。	B	・進路達成に向けて切り替えのための早期指導を推進した。生徒の意識には2極化が見られる。 ・自主学習への取組は不十分なままである。	B	
	3年次	進路学習室の利用を学年をあげて指導し、自主的な学習に取り組めるようにさせる。	・進路学習室が適切に利用できた。	・進路学習室の利用は、朝10名程度、放課後は25程度の利用状況である。	B	・学習室の利用ができてきた。国公立の2次の学習も講座の空き時間は、学習室を利用している。	A	

③ 生徒が自主性を発揮できる場面の工夫と内容の充実	生徒課	松籟祭について、全校生徒が主体的に取り組めるように、執行部が企画したものを、松籟祭実行委員会を通じて体育・文化委員会を中心とした各委員会で検討し、各委員会からの意見を吸い上げることにより、内容の充実を図る。	・生徒松籟祭実行委員会開催3回以上でA ・松籟祭後の生徒アンケートでの「良かった」の回答80%でA	・生徒松籟祭実行委員会3回開催。 ・生徒アンケートではどの項目も良かったとの回答80%以上。	A	・生徒アンケートの結果を見る限り、生徒自身にとって満足の内容であったようだ。来年度はさらに自主性が発揮できる内容を追求するよう工夫していきたい。	A
	総務企画課	生徒が地域連携について研究し、企画・実践する場面を提供する。	生徒が企画に参加して地域の方とともに実践できた。	・栄町商店街活性化プロジェクトの中心となる「地紅茶祭り生徒実行委員会」が6/26、7/17、9/12に開催され、生徒会執行部が参加した。生徒が企画・立案から携わっており、市内の高校生、商店街、地紅茶祭り実行委員会と一緒に11/1のイベントを成功させようと奮闘中である。	B	・11/1の地紅茶祭りは4回の生徒実行委員会を経て行われた。生徒達は企画段階から参加し、本校から136名の生徒が主体的に参加することができた。実施後のアンケートから参加生徒の満足度が高かった。その他4月の「ひな祭り」、6月の「わくわく子どもフェスタ」、8月「高粱を知るの研究」で地域の方と交流を深めた。	A
	厚生環境課	・美化に対する意識の高揚と自主的な活動を促すために、日常の清掃活動の点検をし、周知報告する。また、古紙回収、清掃点検、学校周辺の清掃活動の年間計画を立て、自主的に運営する。 ・緊急地震速報を活用した避難訓練を実施し、生徒が自主的に危機回避できるような心構えを養う。	・SHRで清掃点検の結果を報告し、清掃の徹底指示ができた。 ・美化委員の年間計画が作成でき、自主的に活動できた。 ・緊急地震速報を活用した避難訓練が効率よくできた。	・清掃時間の厳守などが面接期間などに於いて守れていない。場所によっては時間前に来て清掃を開始してくれている。 ・学校行事などで、事前の清掃をよくしてくれている。 ・避難訓練は後期に2回行う予定である。	B	・古紙のリサイクルに関しては生徒にも意識が定着した。 ・学校周辺の清掃活動も年2回でき、生徒もよく活動した。 ・緊急地震速報を活用した避難訓練と抜き打ちの火災避難訓練の2回が実施できた。 ・清掃は比較的良くできているようだが、点検と不備なところのアナウンスが今ひとつ徹底できなかった。	A
	家政科	家庭科全体で地域との交流を充実させ、活動の中で生徒主体の場面を増やす。	「地域との交流において生徒主体の活動ができた」生徒アンケート80%以上。	・産業教育フェアや高粱市主催の各種イベントに積極的に参加している。	B	・「地域との交流において生徒主体の活動ができた」生徒アンケート90% ・年間を通じて産業教育フェアや高粱市主催の各種イベント・家政科展などに積極的に参加できた。	A
	寄宿舎	・各寮内において、寮長、副寮長を中心とした「自主」「自律」の運営を活発にできるように毎週木曜日に各寮において反省会を行う。 ・寮長、副寮長と舎監長との情報交換を月1回行えるような体制を確立する。	反省会並びに情報交換会が計画通り実施できた。	・反省会においては、各寮長を中心に毎週きちんと行うことができています。 ・寮長との情報交換は不定期ではできているが、月1回定期的に行う体制はなかなか確立できていない。	B	・各寮での反省会については、それぞれで定着し、毎週木曜日に行うことができた。それにより自分たちで整理整頓など「自主」「自律」的に取り組んでいる。ただ部屋によってはまだまだのところもあり今後の課題である。情報交換については寮長とは行うことができたが、副寮長とはなかなかできなかった。	B
④ 教職員間の情報共有を図り課題意識を持って組織的に取り組むことができる協働体制作り。	教務課	ア.特別入学者選抜の計画・準備・実施について、昨年度の実態を踏まえ再検討し改善策を講ずる。 イ.職員室内の整備（ホワイトボードの活用、ロッカーの整理など）を事務室や厚生環境課と連携して進める。 ウ.生徒用の朝礼連絡票の様式を改善する。また、教員用の連絡票のあり方を工夫・検討する。	ア.ミスなく円滑な実施ができる。特に口頭試問や係分担について反省点を改善できる。 イ.職員室が情報共有しやすい環境となる。 ウ.改善された朝礼連絡票ができる。ネットワーク上で教員間の情報共有ができる。	ア.口頭試問をはじめ現時点で可能なことについては取り組みができています。 イ.ホワイトボードの活用を検討中である。 ウ.連絡票の様式については他校の様子など情報収集している。ネットワーク上での教員の連絡を10月に試行。	B	ア.昨年度の反省を踏まえた改善策を盛り込んで計画を進めることができた。 イ.時間割変更に関わるホワイトボードの新たな活用を検討している。 ウ.ネットワーク上での連絡が12月より本格実施できた。HR用の連絡票のみが印刷できるようになったり、保存が簡単になった。	B
	生徒課	・毎週課会を開き共通理解を行う。 ・各種様式の整理を行う。	・80%以上開催でA	・9月までは課会開催100%。 ・様式については今後検討する。	B	・本年度から週時程に課会議を組み込んだことにより、毎週、会議を開催することができ、共通理解を図ることができた。 ・様式については検討中で、次年度に持ち越すこととなった。	B
	進路課	・各年次、進路通信を発行し、進路情報の共有化を図り、進路指導の方向性を共通理解する。 ・『進路のてびき』の資料を充実させる。 ・3年間を見通した進路指導を行う。	・進路通信を各年次10回発行できる。 ・校内実力考査の成績と進学先の関連資料をつくる。 ・他年次の集会などに積極的に参加する。	・3年9号、2年3号、1年8号まで発行した。 ・資料の大枠はできたが、『進路の手引き』に掲載はできなかった。 ・課会議の中で集会の予定等の情報交換はしているが、なかなか参加はできてない。	B	・3年12号、2年3号、1年13号まで発行した。 ・本年度のデータを加えて、来年度は資料として掲載したい。 ・他年次の集会参加は、LHRや総学の時間になるので担当学年の運営もあり、なかなか参加しにくかった。	B
	総務企画課	月1回の定例会議を実践する。2週間サイクルで細かい行事計画をたてて紙面配付し、仕事の進捗状況を相互に把握して協力して業務にあたる。	予定通り実践できた。	・月1回の定例会議が実践できている。2週間サイクルの紙面配付は、7月から3週間サイクルに変更した形で、実施している。	B	・月1回の定例会議が実践できた。課の週あたり予定表の紙面配付については、行事の多い11月まで発行し、各担当の仕事を把握する一助となった。	B
	1年次	生徒の情報、様子を媒介とした情報共有、共働体制作りをする。	個人面談カードを活用する。職員室内で日常的な情報交換をする。	・日常的な生徒情報交換ができています。	B	・日常的な生徒情報交換ができています。	A
	2年次	クラス担任と教科担任との連携を密にして生徒の指導にあたる。朝の会などで生徒に関する情報交換をする。	クラス担任と教科担任とで授業中の様子や課題等の提出状況などの生徒情報の共有ができる。	・生徒に関する情報の共有はかなりできている。さらに進路実現に向けた情報共有を促進したい。	B	・朝礼や年次会議を利用して生徒情報の共有はかなりできた。一人ひとりの進路実現のための情報共有を進めたい。	B

3年次	進路課との連携を図り、外部から得た情報を年次団教員が共有できる体制作りを行うことにより、生徒の進路実現に組織的に取り組む。	進路関係の来客や入試説明会で得た情報を、毎回の朝礼や担任会を通じて共有することができた。	・進路関係の来客者からの情報を朝礼で共有した。 ・担任会（月曜6限）を前期10回実施した。	A	・担任会を年間18回実施した。担任会に出席できない教員には、翌日報告書で連絡した。 ・進路関係の来客の対応は3年次団を中心に対応し、翌日の朝礼で、来客者からの情報を共有した。	A
理科	年間を通して週一回の教科会議を行い、生徒の自主的な学習習慣の確立・指導方法の研究など情報交換・協働体制を図る。	・教科会議を年間15回以上できた。 ・授業の進度や指導方法など教科内の共通認識のもと、指導できた。	・現在6回実施。時間がとれず毎週はできていない。回覧などで、主任からの情報発信は絶えず行い、情報共有を行っている。	B	・現在9回実施。会議を不定期にしか開催できなかったが、日頃から緊密に連絡を取り合い、情報共有をきちんと行った。	B
家政科	実習教室の使用状況を表にして共有することで、先を見通した授業計画を立てることができ、円滑に実習を行うことができる。	計画的に実習計画が立てられ、円滑に実習を行うことができた。	・調理実習教室の使用状況表は製作でき活用出来ている。今後、他の実習教室にも製作したいと考えている。	A	・調理実習教室の使用状況表は製作でき、使用状況表により円滑な教室使用ができた。	A
事務室	・事務室内朝礼の充実を図るとともに職員朝礼で連絡・情報提供を行う。 ・文書や物品等の整理を行い、迅速な対応ができるようにする。	・連絡漏れがない。 ・文書や物品等の整理ができた。	・職員朝礼での連絡は適宜行っている。事務室内朝礼が情報共有の場となるよう工夫したい。 ・物品の整理はいくらか実施できたので、今後は文書の整理に取り組んでいきたい。	B	・職員朝礼では、特に工事に関する連絡や情報提供をもれなく行うよう努めた。 ・事務室内でも朝礼や予定表で互いに確認し、情報共有を行った。 ・文書整理については、年度末に向けて各自取り組んでいるところである。	B